

授業づくりで悩んでいませんか？ サポートマガジン『みるみる』で学ぼう！

「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」を実現した授業とは、どのような授業ででしょうか？

今回は、文部科学省初等中等教育局教育課程課の公式 note「授業づくり note」では、教育課程や学習指導等、授業づくりの参考となる資料を公開しています。

そのなかで公開されているサポートマガジン『みるみる』では、「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」を図る授業づくりのための基本的な考え方をまとめた「基本編」と実践事例を紹介する「実践編」の記事が公開されています。

一つ一つの記事は、短時間で読むことができますので、職員会議の最後などでこれらの記事を活用した校内研修はいかがでしょうか？記事を話題に、他の先生との対話を通して理解を深めていただければと思います。

すべての記事をまとめた『みるみる』全編ファイルは、PDF データでダウンロードし、印刷することもできます。



文部科学省 授業づくり note
サポートマガジン『みるみる』は、
二次元コードからアクセスできます



情報モラル育成パッケージ「#60 秒情報モラル」 ※令和3年度長期研修研究成果物の紹介

児童生徒の情報モラル教育、必要性は分かるけど、その時間が取れないと悩んでいる先生方も多いのではないのでしょうか？今回は、活用していただいている学校も多いですが、改めて普段の授業の中で短時間に情報モラル教育を行うことができる「#60秒情報モラル」を紹介します。

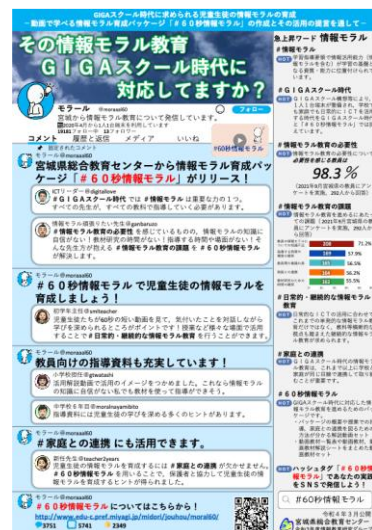
「#60 秒情報モラル」はその名の通り、約 60 秒の動画を見て、気付いたことの対話を通して、情報モラルを学ぶことができる動画教材です。例えば、

- ・写真や動画を撮影する動画では、肖像権や個人情報を守る
- ・発表資料を作成する動画では、著作権や情報の信ぴょう性を学ぶ

のように日常的な ICT の活用場面を想定した動画を用意しています。

このように、改めて情報モラル教育の時間を設定するのではなく、ICT を活用する授業の導入部分の短時間で情報モラルを学ぶ機会を増やすことができます。

児童生徒に気付いてほしいポイントをまとめた指導資料も充実しています。同じ動画でも、発達段階等に応じて視点が変わりますので、小・中・高・特別支援のすべての校種で繰り返し活用できる動画教材になっています。ぜひ、御活用ください。



情報モラル育成パッケージ
「#60秒情報モラル」
は二次元コードからアクセス

令和7年度情報化推進リーダー研修会を実施!! 校内で周知されていますか?

令和7年5月30日(金)に情報化推進リーダー研修会を実施しました。県内の高等学校及び特別支援学校の情報化推進リーダー等102名が受講しました。

午前の部では、県教育委員会の各課室から県立学校を対象とした行政説明を行いました。

- ・校務系パソコン等の更新
- ・BYOD の導入
- ・教育の情報化年間指進計画
- ・外部サービス、生成 AI の利用
- ・個人情報を含むデータ等の管理の徹底
- ・特別支援学校の BYAD 端末



研修会の様子(写真)

午後の部では「授業DXによる授業改善と教育DXの組織的な推進」と題して、近畿大学附属高等学校 教諭 乾 武司先生をお招きし、次のようなお話をいただきました。

- ・近大附属高校が端末を導入した経緯
- ・生徒一人一台端末の導入した後の授業の変化
- ・先生方に対して、どんなアプローチしてきたのか
- ・授業中の生徒の「動詞」を増やす

- 1日研修に変わったのがとても良かった。とても参考になりました。この研修会で得た学びを勤務校での校務に取り入れていきたいと思う。
- ワークショップのような時間があつたので、様々な意見や事例を知れたり、自分の考えを深められたりできてよかった。
- 盛りだくさんの内容だったので、もう一度自分なりに噛み砕いて理解して学校に共有したい。

受講者の感想(アンケートより一部抜粋)

さらに近年注目されている生成 AI の活用や学校 DX でリーダーが実現すべきことを実現性や実効性を踏まえながら、どのように進めたら良いか、組織や体制づくり、授業づくりのヒントになるお話もいただきました。

午後の後半には、学習指導要領を踏まえた授業改善等の実現のため、校内のICT活用推進を情報化推進リーダーとして校内でどのように進めていけば良いのか、グループで話し合いをしました。活発な意見交換が行われ、良い学びの機会になったという感想をたくさんいただくことができました。

この研修会を通して得た学びや気づきを生かすことで、各校の教育 DX が推進されることを期待しています。

次回、7月15日、16日には、小・中学校の情報化推進リーダーを対象にした研修会を予定しています。

プログラミング教材「micro:bit」の貸出方法の変更について

プログラミング教育を推進するため、センターでは、令和2年度から各教育事務所にプログラミング教材「micro:bit」を配置し、教育事務所から借用できる環境を整えておりました。プログラミング教育の普及が進み、教材も充実してきたこと、「micro:bit」の借用が減少していることから令和6年度をもって各教育事務所への配置を終了しました。令和7年度から貸出方法が次のようになっております。

- ① 大河原、仙台、北部、東部教育事務所管内の小・中学校及び教育委員会の場合

学 校 → 教育委員会 → センター

- ② 気仙沼教育事務所管内の小・中学校及び教育委員会の場合

学 校 → 教育委員会 → 気仙沼教育事務所



詳細は、センターホームページの「ICT を活用した授業づくり」に掲載されている「[プログラミング教育教材貸出し実施要項](#)」をご覧ください。右の二次元コードから確認できます。

(編集後記) 今号は、各校で年度初めに共通認識を図っていただきたい内容を掲載させていただきました。職員会議後の短い時間でも理解が深まる内容としましたので、ぜひ御活用ください。[第40号担当:千坂]